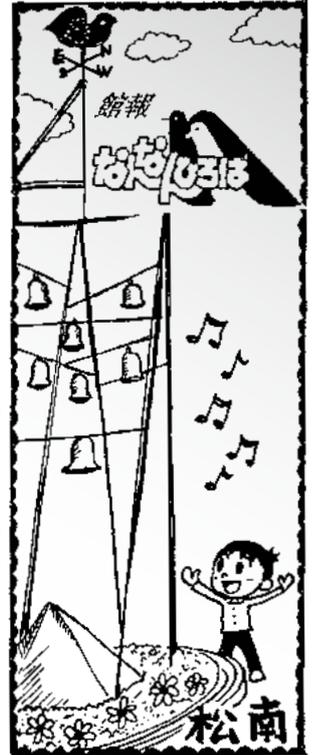




トリアージ訓練

# 医療救護所開設訓練

第三十六回松本市総合防災訓練が、震度七の直下型地震を想定して九月六日に実施されました。松南地区の住民は、信明中学校での訓練に参加しました。昨年に引き続き、参加者を模擬患者とし、実際にトリアージの訓練、応急処置の説明が行われました。



## トリアージとは

災害時には、医療機能が制約される中、ひとりでも多くの傷病者に対して最善の治療を行うために、傷病者の重症度や、緊急度によって、治療や搬送の優先順位を決定することです。

## トリアージの判断基準

**黒** 治療の適応なし  
死亡していたり、救命の見込みがない人

**赤** 緊急治療を行えば助かり  
そのような人

**黄** 治療の必要性はあるが待機可能な人

**緑** 入院治療の必要がない人

## ほこと法 (START法)

トリアージは、ほこと法で実施します。

**ほ** 歩行できるか (歩行可能は緑タグ)

**こ** 呼吸しているか (気道開通の有無)

**と** 橈骨 (手首) 動脈は触れるか (循環のサイン)

**て** 手を握れるか (従命反応)

## 誰がトリアージを行うか



医師、救急救命士、時には看護師等が行います。傷病者には、トリアージタグ (負傷者の分別札) という札に、必要事項を記入し、四色に色別して区別し、傷病者の右手首に取り付けられるように、ゴムバンドが付いています。参加者は、訓練を通してトリアージの大切さを学びました。(塩原 保彦)

災害時にはトリアージ (負傷者の区別) に、ご協力ください。

## 自主防災組織

平成十八年六月、松本市長より災害時に備えた「自主防災組織」の結成について町会長に依頼があり、町会に防災

部が立ち上げられました。今年度の各町会の防災訓練は次のとおりです。

- 南松本一丁目 (11月下旬頃)
  - ・ 消火訓練等
- 南松本二丁目 (10月3日 土)
- 高層ビルの避難誘導訓練
- 初期消火訓練
- 芳野町 (11月8日 日)
  - ・ 安否確認
  - ・ 本部連絡体制訓練
- 双葉町 (11月14日 土 午前中)
  - ・ 放水訓練等
  - ・ 安否確認等
- 双葉南 (10月頃)
  - ・ 安否確認訓練等
- 双葉西 (11月1日 日)
  - ・ 安否確認等
  - ・ 初期消火訓練等
- 宮田東 (10月12日 月)
  - ・ 応急搬送訓練等
- 宮田中 (日時は未定)
  - ・ 防災の講演
- 宮田西 (日時は未定)
  - ・ 応急処置訓練

# わがまちのお宝 〈宮田東町会〉



…お宝  
宮田東町会には無  
いよ…と  
口癖のよ

うに言ってきた私。そんな時ある人が「お宝」は物だけではないよ。少し見方を変えてみたら…と助言してくれました。この一言で町会の古くを知る方が少なくなってきた。今、町会の歴史を知る方こそ我が町のお宝だと気づきました。さっそく、当町会の町会長を永く務めてこられた、わがまちのお宝、河村明さんにお話を伺いました。

戦後の混乱時期、昭和二十二年十月、主に松本郷開拓団員家族、台湾ほか海外よりの引揚者を対象に、松本市が旧宮田製作所の一部独身を借り受け一棟に二十部屋、それが四棟、計八十世帯が入居しました。当初は鎌田地区、宮田東町会として発足しました。当時は大字出川町何番地、大字野溝尻何番地と分かれ、また、郵便物の配布物も松本郵便局と村井郵便局とに道路を挟み配達区域が違いました。当時の町会の近隣区域内には、競輪場、黒部第四発電所の建設資材置き場、塚田木工、河合楽器、松本家畜市場、島藤建設製材所等の会社がありました。特に家畜市場の競り市が立つ日は町会の皆さんは喜んで参加見学をして祝い酒をいただきました。今はお祭りはありませんが、当時は四柱神社、多賀神社のお祭りに町会あげて、メ縄を飾り盛大な時期もありました。

その後、国道十九号の開通に伴い、スーパーマーケット、大型菓子店、ガソリンスタンド、会社の支店、自動車展示販売会社、等が国道沿いにできました。長野県教育センターも広大な敷地に建てられました。

宮田東町会のもう一つの「お宝」は、松本市の新しい住居表示に伴い、宮田一番一号から始まる町会です。宮田中・宮田西、三町会の基点のある町会です。町会ができて六十八年を迎え、町会設立当時の古い歴史を少しでも後世に残したいと思います。河村さんには貴重なお話をさせていただき、お元気で長生きをされて、今後いろいろな教えていただきたいと思います。

宮田西公民館の手芸クラブで、水引手芸を教えている水越正さんをお訪ねしました。富士電機を定年退職されてから、老後の趣味にと最初に松本でまりを二年程作っていました。が、今から十八年前に、飯田地方へのバス旅行の途中、水引工房見学で、素晴らしい作品に魅せられ、感動の出会いとなりました。職人さんの実演を見て、水引の紐で色々な物が作れる面白さに自分で作ってみたくなり始めたことです。初めは本を見て作り、わからない時は飯田の水引問屋さんのプロに教えていただきました。(最初の頃は月に一度は通ったとのこと)一本の水引の長さ約九十センチ、直径一ミリで、二百種類ほどの色があり、これを「結び」「編む」「張る」の三つの技法を使って作品を仕上げます。花やブローチ等の小物は比較的簡単に作れますが、七八十本を使う家紋などは、根気のいる仕事です。しかし、一点仕上がる毎に上達することが嬉しくて、夢中で作ってきたとおっしゃいました。そうして作った作品の数々を箱の中から出して見せていただきました。徳川家・水戸家の家紋から阿弥陀様のお姿や、県や市の紋章まで素晴らしいものばかりでした。

福祉ひろばの講師を頼まれたこともありました。また、町会の手芸クラブで教えられたブローチや盆栽、花などは、毎年町会の文化祭に展示され、皆さんの眼を楽しませていただき人気の高いいコーナーです。この他にも根付けを沢山作り、町会の行事のビンゴゲームの景品に付けたり、西友会の旅行のお楽しみビンゴゲームで頂いたこともあります。現在は体調を崩され、クラブも休会されています。是非一刻も早くお元気になられることを祈っておいたしました。

(金子 幸治) (高橋 愛子) (小林 智博)

# ひと水越正さん



宮田西公民館の手芸クラブで、水引手芸を教えている水越正さんをお訪ねしました。



福祉ひろばの講師を頼まれたこともありました。



唇に歌をよ、風呂場で、トイレで、酒場で…歌は発声することで活力が増し、毎日が明るく楽しく元気の源になります。祖母参観で聞く快活な園児の歌声、プロ歌手のリサイタルで聞く円熟の美声、私達仲間のサークル月例会の熱唱など、様々な場所様々な歌が歌われ、生活の一部になっています。ジャンル別で見ると「唱歌・童謡」「バラード」「民謡」「演歌」などですが、私は「唱歌・童謡」に大きな魅力を感じています。例えば皆が知っている「故郷」は、いにしえの人の時代からの美しい日本の心、つまり、大和ことばが使われ、歌唱する度に日本の原風景が浮かび、大変好きな歌です。歌手の安田祥子姉妹の「ハーモニックな歌唱は、絶賛に値します。『音程』『表現力』『こぶし』『ビブラート』『リズム』などを研究し、何度も歌い聞くことが上達の近道です。歌は、嗜好の世界の一部です。日進月歩、少子高齢化の進む日本、日々唇に歌をよ、心に青春の風を…是非一日でも永く楽しむ人生を過ごしたいと願っています。